

大友氏顕彰会だより

おおとも

第 49 号

理事長 牧 達夫
編集 溝部幸祐

通常総会について

新型コロナウイルス感染が全国に拡大していることから、その対策として安倍晋三首相は4月16日、全都道府県に「緊急事態宣言」を発令しました。

毎年5月に、大友氏顕彰会の通常総会を開催していましたが、新型コロナウイルスの影響で総会を開催できない状況です。

『通常総会資料』を送りますので、質問意見のある方は左記へ連絡願います。

連絡先 溝部幸祐 事務局長
住所 〒870-0844

大分市古国府7-3

FAX 097-544-2283

mizobe88@plum、

plala、or、jp

その他 質問・意見は「郵送・FAX・メ

ール」にてお願いします。

大友氏と府内のまち歴史散歩②

牧 達夫 (理事長)

①大友氏館跡「庭園の復元」

庭園は大友氏館跡(二〇〇メートル四方の敷地)全体の約七分の一の敷地面積があり、東西六七メートル、南北三〇メートルという戦国時代で日本最大級の池を持つ庭園である。

この庭園は宗麟の祖父十九代当主・義長よしながから二〇代・義鑑よしかんの頃に造られ、宗麟の時代に大きく改修され、二十二代・義統よしむねの代にさらに大規模な改修が行われ、最大規模になったといわれる。

また、庭園は東半分と西半分で異なった表情を示しており、池の東側は巨石をダイナミックに組み合わせた躍動感ある景色をつくり、西側は石をあまり使わず、水面を広く見せた穏やかな表情を楽しめるとのことである。



【復元が近い大友氏館の庭園】

庭園には植栽も重要なポイントになるが、当時の池から発見された花粉をもとに植物を植えていくとしている。身近かで見る庭園の復元が楽しみで、もう間もなく完成の予定であり、この庭園がオープンとなれば観光の一つにもなると確信している。

②デウス堂跡 大分市顕徳町二丁目

大友氏館跡から道を隔てた西側の住宅地に「デウス堂跡」の石碑が立っている。そ

【デウス堂跡】



の横に、説明版（大分市教育委員会）がある。それによると、天文二十二年（一五五三）六月、府内に礼拝堂が建立され、高い十字架が建てられた。

これが府内教会（デウス堂）で、「わが慈悲の聖母（ノツサ・セニョーラダ・ピエダデ）教会」と呼ばれた。これが豊後で最初の教会といわれている。

ザビエルが、豊後を出帆して一年半のことであるが、宗麟との約束が果たされたものといえる。

◎若宮八幡社

大分市六坊

デウス堂跡から南に行って日豊線の高架を過ぎ、さらにもう少し行くと久大線の高架がある。これを過ぎた右手に若宮八幡社が佇んでいる。

この若宮八幡社は、大友氏初代・能直が鶴岡八幡宮から勧請して創建したと伝えられている。その由来から大友氏の氏神として崇敬厚く、大友宗麟・義統父子も社殿を修営したという。

この境内に「ギリシタン水盤」と呼ばれる手水鉢がある。十字模様の刻まれた水鉢



【 若 宮 八 幡 社 】

で、デウス堂と若宮八幡社は森で接していたとの伝承もあり、そこで使われたのではないかともしられている。

【ギリシタン水盤・下】



④上野大友館跡

大分市上野丘

若宮八幡社から上野丘の丘陵に上つていくと、もう一つの大友館（跡）がある。上野大友館である。



【 上 野 大 友 館 跡 】

ここは府内大友館を築く前に居城としていたといわれ、丘陵の崖地を利用した守りの城館だったと思われる。宗麟が家督を継ぐきっかけとなる大友家の内乱「天友二階崩れの変」は、ここで起こった事件と推測されている。だが現在では、府内の大友館説もあり、どちらかは、はっきりしていないようである。

ここ上野大友館は作家・白石一郎の『災城』、遠藤周作の『王の挽歌』、赤瀬川隼の『王国燃ゆ』などの舞台の一つとなっている。

この舞台の館は、今は南側の土塁跡に、『西山城大友屋形趾』の石碑が立っているだけで、東西一〇メートル、南北一五〇メートルといわれる敷地は全て住宅地になっている。

当時、この大友館から別府湾に浮かぶ南蛮船の姿を、はつきり見ることができたであろう。

⑤ 遊歩公園

大分市府内町

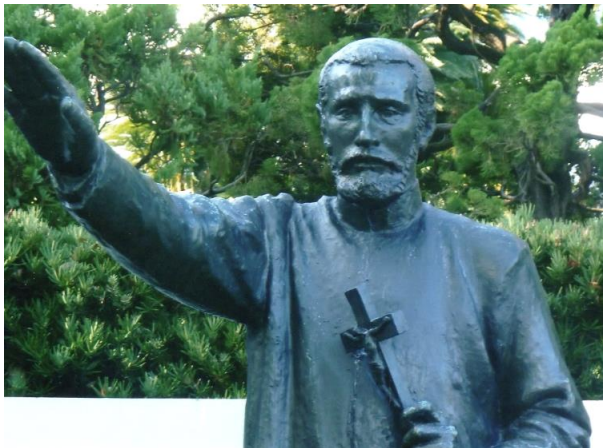
府内城大手門前の昭和通りを隔て、大分県庁前から南に延びる道路(中央に緑地が伸び両側に車道)の緑地部分は、遊歩公園といわれ、その公園の中に「フランシスコ

・ザビエル像」 育児院と牛乳の記念碑」 「西洋医術発祥記念碑」 「西洋音楽発祥記念碑」等々、大分の先進性を伝える記念碑が次々と立ち並び、当時(大友宗麟時代)の文化を今に伝えており、市民憩いの場として親しまれている。

これらの記念像・碑は戦後の大分市の復興・発展に奔走した元大分市長・上田保が南蛮文化顕彰のため、私費を投じて寄贈したものである。

① フランシスコ・ザビエル像

ザビエル像は右手を前方に挙げ、左手には十字架がしっかりと握られている。



【フランシスコ・ザビエル像】

ザビエルの厳しさの中に温かみのある眼差しに、宗麟は慈父のような感銘を受け、キリスト教を保護し、南蛮文化を受け入れたのであろうか。

② 西洋音楽発祥記念碑

西洋音楽は一五五五年、府内に聖歌隊が生まれ、オルガンの伴奏で日本で初めて讃美歌を合唱したといわれている。像は外国人神父がバイオリンを演奏し、その前で日本人三人の着物姿の童子が歌っている。



【西洋音楽発祥記念碑】

なお、一五六〇年七月、ビオラを教わった少年たちが宗麟の前で演奏し喜ばせたという。

③ 西洋劇発祥記念碑

碑文によると、二五六〇年のクリスマスに、府内の教会で信者たちによって西洋劇が演じられた」とある。

宣教師の指導のもと、劇は日本で初めて催されたといわれている。



【西洋劇発祥記念碑】

④ 育児院と牛乳の記念碑

銅のレリーフで、牛の乳をしぼっている様子、赤ん坊にミルクを飲ませている女性、そして遊んでいる子供と医師アルメイダが彫り込まれている。

当時、日本には「間引きの風習」があることを聞いたアルメイダは、一五五五年に大友宗麟の許可を得て府内に育児院を設置し、幼児の養育に努めた。



【育児院と牛乳の記念碑】

異様ともいえる日本の文化（風習）に衝撃を受けたと思われるアルメイダの決断は早かった。

⑤ 西洋医術発祥記念像

アルメイダは外科医の資格も持っていた。診療台の上で両足を出して座っている患者の膝に手をかけたアルメイダが助手（日本人か）と共に治療に当たっている銅像である。

病院開設は一五五六年（一五五七年説もある）とされ、一つは負傷や治療すれば治ると思われる病棟と、もう一つはハンセ病



【西洋医術発祥記念像】

棟だったといわれている。

この病院を大友館の近くに造らせ支援した大友宗麟は、戦国期の日本にあって、ヒューマニズムあふれる面目躍如の見識といえる。病院の評判はたちまち広まり、遠く京あたりからも駆け付けた人もいたという。

アルメイダはのちに宣教師となり、日本の初期のキリスト教の布教において、特に九州では強烈な足跡を残している。フロイスは「この四十年間に日本へ来た人材の中で、最も優れた宣教師の一人」と、その天分と行動を絶賛している。九州ではキリシタンゆかりの地で、アルメイダの名をいたる所で聞くことができる。

このアルメイダと大友宗麟は終生無二の友人であり、事ある毎に二人は会って話をしている。

アルメイダのことについては、現在のアルメイダ病院内にある大分医師会館に、アルメイダの胸像、府内病院の想像模型セツト、アルメイダの生涯にわたる資料等々があり、事前に許可を得て見学することができる。

⑥ 伊東マンショの像

遊歩公園の中では、伊東マンショの像だ

【伊東マンショの像】



けが茶色の彩色が施されている。作者は、長崎公園の平和記念像で知られる北村西望きたむらせいぼうという。

伊東マンショは大友宗麟の遠縁といわれ一五八二年二月、宗麟の名代として他の三人の少年とともにローマへ派遣されたが、伊東マンショはこの四少年の首席使節だった。こうした歴史の舞台に登場できたのも宗麟の力が大きかったと思われる。

⑦ 南蛮貿易場趾の碑と大友宗麟の像

大分市勢家神宮浦公園

「南蛮貿易場趾」の碑は大きな自然石を板状に加工した巨大な碑である。

この小さな公園に、高い台座に大友宗麟が左手で太刀を杖のように立て、海の方角を見ている雄姿あふれる銅像が立っている。当時、海はここ神宮浦公園のすぐ北にあ



【南蛮貿易場趾の碑】



【大友宗麟の像】

り、沖ノ浜もその先にあったと思われる。

㊦大分駅北口（府内中央口）広場

平成二十七年春、新装なった大分駅ビル「JRおおいたシティ」がオープン。北口駅前のビルはザビエル城を模したといわれるデザインで話題を呼んでいる。

三月二十一日、この北口広場で久し振りに帰ってきた大友宗麟の像と、この機に初



【大分駅ビル「JRおおいたシティ」(北口駅前)】

めて設置された聖ザビエル像の除幕式があった。

やっと同じ場所に宗麟とザビエルの像が仲良く設置され、その歴史の出会いを市民に伝えることができた。特に今後は小・中



【復帰した大友宗麟像】



【新設されたザビエル像】

【新設ザビエル像とパレードの子供ら】



学生に、この二つの像の意味合いを伝えていきたいものである。

参考文献等

完訳フロイスの『日本史』 中公文庫

聖フランシスコ・ザビエルの歩いた道

パウロ・フィステル

ザビエル布教の道 井沢元彦

ザビエルとヤジロウの旅 大住広人

ザビエルの海 宮崎正勝

戦国日本と聖フランシスコ・ザビエル

大分市

府内から世界へ大友宗麟

大分市

各史跡・寺社等の由来書き・案内書等